

どうなる？どうなる？自治

最上地域、金山町の将来像を考える



町の将来像を考える町民集会（8月30日、農村環境改善センター）

高まる合併論議

平成15年から16年にかけて議論された最上地域の市町村の合併協議については、新庄市を除く各町村は、時期尚早との判断から当面は自律（立）の道を選びました。そして、平成17年4月から施行された新合併特例法の期限が平成22年3月に迫る中、山形県知事から未合併の市町村に合併推進の要請書が送られるなど、最上地域の合併論議が次第に高まってきています。

最上地域の将来像検討

このような状況の中で、最上地域の8市町村長は、「住み良く豊かな、明日の最上地域づくり」のために、市町村合併問題への対応のし方や最上地域の将来のあり方を話し合うため、平成20年1月に「最上地域将来像検討会」を立ち上げました。検討会は、毎月1回開かれ、さらに、各市町村の職員による幹事会で、合併により予想されるメリット・デメリットや広域連携による地域総合力の向上などについて、調

首長の意思表示

各市町村長は、これらの内容や住民の意見等を踏まえ、9月の検討会において、合併を選択するか否かの考え方を表明することとしています。

金山町の将来像は？

金山町では、町づくりについて真正面から考え、取り組んでいくために、7月に職員による「金山町将来像調査像検討専門委員会」を立ち上げ、自律と合併の両面を見据えて、町の将来の行財政シミュレーションを進めてきました。その内容については、「金山町将来像調査検討専門委員会報告書」を、8月20日に町議会議員と区長のみなさんに配布すると同時に、その「ダイジェスト版」を全戸配布させていただきました。そして、22日の町議会全員協議会、23日の区長公民館長連絡協議会役員会、30日の「町の将来像を考える町民集会」においてそれぞれ説明し、ご意見をうかがってまいりました。

わが町の選択は？

9月4日開催の第9回最上地域将来像検討会で行われる鈴木町長の意思表明の内容については、別途紹介する予定とさせていただきます。



町議会全員協議会（8月22日、役場）と区長公民館長連絡協議会役員会（8月23日、中央公民館）で、町の将来像調査検討専門委員会の報告書を説明し、意見をいただきました。

新しい農業委員会委員 決まる

敬称略、順不同。丸数字は今回を含む委員在任期数、カッコは選挙による選出と団体選任の別。

任期満了に伴う町の農業委員会委員の選挙が、7月1日に告示され、立候補の届出人数が定数（7名）と同数であったため、無投票で当選が決まり、7月7日に、町選挙管理委員会平川忠治委員長から当選証書が交付されました。また、町議会、金山農業協同組合、山形中央農業共済組合、泉田川土地改良区の各団体から推薦された4名に、選任による委員として、7月15日付けで、町長から辞令が交付されました。そして、7月28日に開かれた改選後初めての農業委員会総会で、会長に西田吉郎委員、会長職務代理者に柿崎喜一委員が選出されました。

町の基幹産業であるとともに、安全で安心できる食の供給や食料自給率の向上、環境保全など、極めて大事な課題を抱え、かつ大きな期待が寄せられている農業の、これからの方向付けを担う農業委員のみなさんには、地域農業のリーダーとして活躍くださることをお祈りします。

			
栗田 広基 43歳 小 蟬 ① (選挙)	会長職務代理者 柿崎 喜一 53歳 田茂沢 ⑤ (選挙)	会 長 西田 吉郎 66歳 羽 場 ⑦ (選任・農業共済)	
			
佐藤 久 62歳 下野明 ③ (選挙)	青柳 肇 66歳 榎 台 ② (選任・土地改良区)	須賀 益夫 65歳 山 崎 ③ (選挙)	松田 誠治 61歳 十日町 ① (選任・町議会)
			
柴田 清次 68歳 入有屋 ③ (選挙)	柴田 孝男 62歳 羽 場 ① (選任・金山農協)	柿崎 真一 53歳 朴 山 ① (選挙)	中村 忠三 71歳 三 枝 ⑦ (選挙)